

2018年4月1日～2018年9月30日

第152期中間(第2四半期)のご報告

株主の皆様へ

FURUKAWA

証券コード：5715

株主の皆様には、平素から格別のご支援を賜り、誠にありがとうございます。

ここに第152期第2四半期連結累計期間(2018年4月1日から2018年9月30日まで)の決算の概要を報告申し上げます。

経営環境と業績について

当該期間の日本経済は、旺盛な設備投資意欲や海外経済の回復基調を背景に緩やかな回復が続いた一方、米国の政権運営や通商政策の動向、世界的な貿易摩擦の激化、金融資本市場の急激な変動など、不透明感が高まる状況となりました。

このような経済環境のもと、当社グループの当第2四半期連結累計期間の売上高は862億58百万円(対前年同期比61億56百万円増)、営業利益は39億5百万円(対前年同期比37百万円減)となりました。売上高は主として産業機械、ユニック、金属、電子部門で増収となり、営業利益は主として産業機械、電子部門で増益となりましたが、金属部門は減益となりました。経常利益は持分法投資損益の悪化により42億18百万円(対前年同期比5億29百万円減)となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は29億64百万円(対前年同期比4億77百万円増)となりました。

連結業績予想と配当について

2019年3月期の通期業績予想については、前回(2018年8月6日)発表から11月7日付で一部修正しました。業績予想における前提を銅価6,500米ドル/トン、為替105円/米ドルから、直近の動向を考慮し、下期では銅価6,200米ドル/トン、為替110円/米ドルへ変更しました。

売上高については、機械事業では、破碎機、造粒機などマテリアル機械の増収を見込む産業機械部門、移動式クレーン構造規格の一部改正に伴う駆け込み需要による増収を見込むユニック部門で増収となる見込みです。一方、ロックドリル部門では国内のトンネルドリルジャンボの出荷増が見込まれますが、海外向け油圧クローラドリルの出荷減により減収となる見込みです。また、金属部門では電気金の生産数量の増加により増収となる見込みです。営業利益については、金属部門では銅および金価格の前提条件見直しにより減益を見込んでいる一方、産業機械部門とユニック部門では増収による増

益、また、ロックドリル部門では国内でトンネルドリルジャンボの出荷増などにより増益となる見込みです。これらを踏まえ、通期業績予想を売上高1,740億円(対前回予想比3.0%増)、営業利益70億円(同横ばい)としましたが、内外の不透明な情勢から決算期末日における為替相場が見通せないため、経常利益61億円、親会社株主に帰属する当期純利益40億円については、修正していません。なお、配当につきましては、期初発表通り、中間配当は行わず、期末配当予想を1株当たり50円としています。

株主の皆様には、引き続きご支援・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2018年12月



代表取締役社長

宍川尚久

経営理念を具現化する2025年ビジョンの達成を目指し、中期経営計画のもと新たな成長の礎を構築していきます。

当社グループは、経営理念を具現化すべく、創業150周年を迎える2025年度に向け、2025年ビジョン「FURUKAWA Power & Passion 150」を掲げ、「カテゴリートップ・オンリーワン」を基軸として成長する企業グループの実現を目指しています。2025年度までを3つのフェーズに分け、第1フェーズとして2017-2019年度を対象とする『中期経営計画2019～新たな成長の礎を構築～』を策定し、新たな一歩を踏み出しました。自らの得意とする分野で独自技術を極め、お客様と社会に役立っていくことで持続的な成長を図っていきます。

経営理念

古河機械金属グループは、
鉱山開発に始まり
社会基盤を支えてきた技術を進化させ、
常に挑戦する気概をもって
社会に必要とされる企業であり続けます。

機械事業をコア事業と位置づけ、持続的拡大に取り組めます。

機械事業で注力する重点分野

※製品シェアは当社調べ

インフラ整備に関わる機械製品の稼働映像はこちらをご覧ください。

[社会基盤を支える古河機械金属 インフラ編](#)



トンネル工事 国内シェア **80%**

トンネルドリルジャンボ

ベルトコンベヤ

シールドポンプ

道路や鉄道のトンネルを掘る

山岳トンネル工事において岩盤発破に必要な火薬装填用の孔を開けるトンネルドリルジャンボや大量の土砂を搬送するベルトコンベヤ、地下トンネル工事で掘削した土砂を水で圧送するシールドポンプ等を開発・製造。鉱山開発で培った掘削技術や搬送技術が活躍。



トンネルドリルジャンボ



ベルトコンベヤ



シールドポンプ

コンクリート

国内シェア **15%**

国内シェア **65%**

油圧クローラドリル

国内シェア **40%**

油圧ブレーカ

破碎機

岩盤を砕き小さく割る
 コンクリートなどの原料に

原料となる砕石・石灰石を採掘し砕く

コンクリート原材料である砕石や石灰石を採掘するために、岩盤を発破して崩すための火薬装填用の孔を開ける油圧クローラドリルや、大きな岩石を小割する油圧ブレーカ、プラントで砕石等の大きさを揃えるために使用される破碎機、スクリーン等を供給。各地のコンクリート需要に貢献。



油圧ブレーカ



油圧クローラドリル



破碎機

土木・建設現場

国内シェア **40%**

国内シェア **50%**

国内シェア **10%**

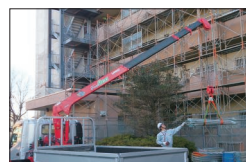
ユニッククレーン

ミニクローラクレーン

油圧圧砕機

吊る・積む・運ぶ・解体する

建築資材等の運搬と積み降ろし作業が1台のできるユニッククレーンや、トラックの入り込めない場所にも自走し作業可能なミニクローラクレーンのほか、解体現場では油圧圧砕機が活躍。優れた機能性・操作性・安全性を備え、環境にも配慮した建設機械を供給。



ユニッククレーン



ミニクローラクレーン



油圧圧砕機

操作性・効率性・安全性を格段に高めた 新型ユニッククレーン「G-FORCEシリーズ」を展開

ユニック部門ではユニッククレーン(トラック搭載型クレーン)のさらなる競争力の強化を図るため、2016年11月より小型から大型までフルモデルチェンジを実施しました。さらに2018年2月には、移動式クレーンの安全性を一層向上すべく、荷重計以外の過負荷を防止するための装置を備えることが厚生労働省により義務づけられ、本規格改正に対応した安全強化モデルを10月より販売開始しました。操作性・効率性・安全性を格段に高めた、新型ユニッククレーン「G-FORCEシリーズ」の強みをご紹介します。

業界をリードしてきた トラック搭載型クレーンの代名詞

ユニッククレーンの歴史は1961年、日本初のトラック搭載型クレーン「UNIC100」を開発したことに始まります。高度成長期の1967年には全油圧式クレーンを開発し、同年に登場した「U-200R」シリーズは13年間に及ぶロングセラーとなりました。

また1984年には、クレーンの長尺・多段ブーム化のニーズに対応した全自動伸縮5段ブームを開発しました。一方、省力化のニーズに応えるべく、1985年に業界初の無線式遠隔操作装置であるワンハンド型ラジコンを開発し、従来2人で行っていたクレーンの運転と玉掛け作業が1人で行えるようになりました。

さらに2006年には、省エネ化のニーズに対応した画期的な低燃費・低騒音クレーンを開発し、経済産業省主催の平成19年度(2007年度)省エネ大賞を業界で初めて受賞しました。

このようにトラック搭載型クレーンの代名詞として、50年以上にわたって業界をリードし、進化し続けてきた実績と信頼がユニッククレーンの最大の強みと言えるでしょう。

つり荷重の「見える化」と さまざまな「安全装置」

建築・土木現場では深刻な人手不足が進んでおり、熟練のクレーンオペレータが減少している現状では、誰もが安心して安全にクレーン操作を行えることが求められています。

その課題に対応した新型ユニッククレーンの強みの1つが、「安全性の向上」です。

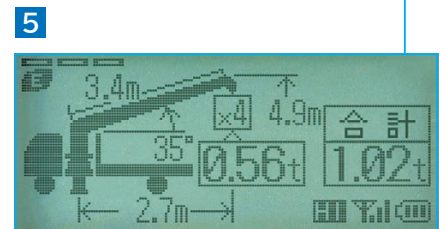
正確なつり荷重の常時「見える化」を実現した「デジタル式荷重計」**1**を、業界に先駆けて全機種に標準装備しました。誰でも簡単かつ安全に作業できる範囲を把握することができ、過負荷によるクレーンの折損や転倒事故を防ぐことが可能です。

また2018年2月の規格改正に対応して、過負荷を防止するための装置として、過負荷状態を警報音で知らせる装置とクレーンの作動が自動停止する装置の2種類をラインナップしました。

ほかに、クレーンの格納作業を効率化する「全自動格納」やブームの架線等への接触事故を防止する「高さ制限装置」、荷ブレを未然に防ぐ「自動減速機能」など、さまざまな「安全装置」を装備しています。



液晶ラジコンJOY
(ジョイスティック式)



つり荷重の加算表示機能

ジョイスティック式ラジコン に対するお客様の声

「連動操作がしやすい。一度使うと手放せなくなる」(運送業)

「指1本で連動操作ができるので、選択スイッチ式ではできない曲線的な操作が可能」(足場業)

「思い通りの操作がスムーズにでき、作業時間が大幅に短縮した」(建設業)

「(ほとんど連動操作だから)使いやすい。電源スイッチは誤作動防止に良い」(架設・鉄筋業)

「操作中に手が疲れるとか、指が痛くなることはほとんどない」(運送業)

「操作の時は皮手袋をするが、すべったりしない。もう選択スイッチ式には戻れない」(石材業)



中型ユニッククレーン「G-FORCE」



デジタル式荷重計

液晶ラジコンと高度な制御で操作性もさらに進化

新型ユニッククレーンのもう一つの強みが、「操作性の向上」です。

クレーン作業ではブームの「伸縮」「起伏」「旋回」とフックの「巻下・巻上」を同時に行うことが求められます。「液晶ラジコンJOY」**2**では、この4つの操作を2つのジョイスティックレバーに集約し、イメージ通りのクレーン操作が行えるため、ユーザーの高い評価を受けています。さらに「液晶ラジコンJOY」では、つり荷重を液晶画面で確認しながら、車両から離れた場所でも安心してクレーン操作ができるようになりました。

また、フックの「平行移動」**3**「対地平行移動」**4**に加え、高機能モデルにはブームの先端が半自動で車両に対して前後左右に平行移動や垂直移動する「直交動作モード」を新たに搭載しました。本来は熟練の操作技術が必要だった連動操作を、液晶ラジコンの高度な制御技術のアシストで簡単に行うことができ、作業効率を大幅に向上させています。

さらに、車両の過積載防止にも役立つ「つり荷重の加算表示機能」**5**には、発売以降に要望のあった「過積載時警報機能」を追加し、走行時の安心をサポートしています。

さらに、車両の過積載防止にも役立つ「つり荷重の加算表示機能」**5**には、発売以降に要望のあった「過積載時警報機能」を追加し、走行時の安心をサポートしています。

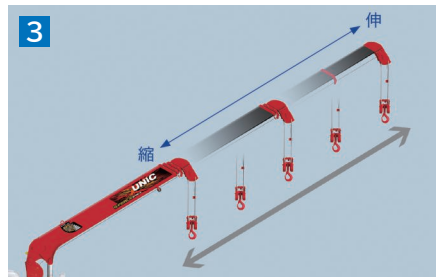
環境に配慮したエコ機能で省エネと低騒音を実現

新型ユニッククレーンのさらなる強みが、徹底追求した「エコ機能」です。

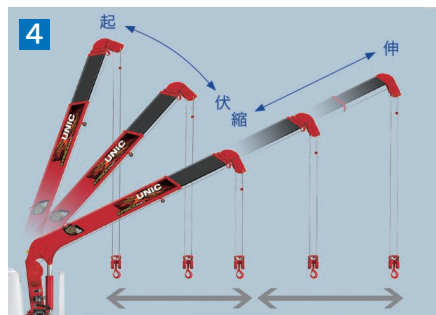
従来1つの油圧ポンプで作動させていたク

レーンを、2つの油圧ポンプで作動させる「ダブル・ポンプシステム」により、エンジンの回転数を抑え、燃料消費量と騒音の低減に成功しました。新シリーズではこのダブルポンプに加えて、デジタル式荷重計の荷重情報を油圧ポンプの制御に反映させる「スマート・エコシステム」を採用。より精緻なオイルコントロールを可能にしました。

さらに、ブームを制御するシリンダやフックを巻き上げるウインチにも独自に開発したエコ仕様の装置を搭載することで、作業性を向上させながら徹底的に省エネ・低騒音化を追求し、従来機に比べてエンジン回転数を約47%低減、燃料消費量を約40%低減、騒音値を5%以上低減させるなど、優れた環境性能**6**を実現しています。



フック平行移動



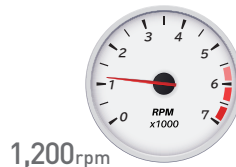
対地平行移動

6 従来機と新型機のエコ性能比較 (中型ユニッククレーンの場合)

エンジン回転数※

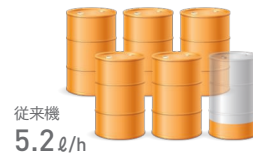


約 **47%** 低減

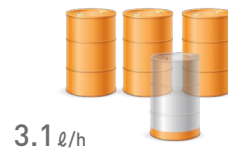


※最大値

軽油消費量※



約 **40%** 低減



※1時間当たり

騒音値※



4dB 低減



※最大値

ユニッククレーン、ミニ・クローラクレーン 国土交通省のNETIS (新技術情報提供システム) に登録

国土交通省は、公共事業等における新技術の活用のため、新技術情報提供システム (New Technology Information System: NETIS) を整備しています。このNETISにユニッククレーン、ミニ・クローラクレーンが登録されました。公共工事において、施工者がNETISの登録製品を使用することで、工事成績評価の加点や総合評価落札方式での加点も期待できます。概要は以下の通りです。

エコクレーン

登録番号 HK-100026-VE

「エコポンプ・システム」により、トラックのエンジン回転数を抑え、燃料、排ガスの削減およびエンジンの騒音が低減されます (中型ユニッククレーンの場合、従来機と比較して燃料消費量と排出ガスを共に約40%削減)。

デジタル式荷重計付クレーン

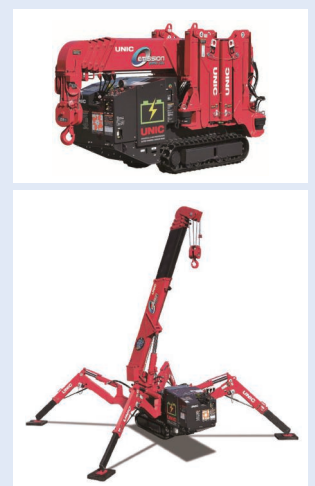
登録番号 HK-180006-A

正確なつり荷重の常時見える化を実現したデジタル式荷重計付クレーンです。作業性・視認性・安全性の向上が期待できます。

バッテリー式ミニ・クローラクレーン

登録番号 KT-160141-A

バッテリーを内蔵し電動モーター駆動によりクレーンの走行およびクレーン作業を行うミニ・クローラクレーンで、CO₂排出量ゼロおよび低騒音化が図られ、作業環境の向上、地球環境への影響抑制が期待できます。



バッテリー式ミニ・クローラクレーン

→ 詳しくはNETISのサイトをご覧ください。

NETIS

検索

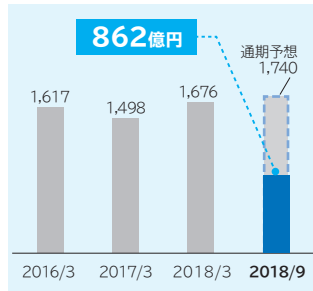
事業部門別の概要

産業機械部門では、橋梁のほか、破碎機やスクリーンなどのマテリアル機械が増収、ベルトコンベヤなどの大型プロジェクト案件でも出来高に対応した売上高を計上しました。ロックドリル部門では、国内向けは油圧圧砕機や油圧ブレーカの出荷が増加、トンネルドリルジャンボも順調な出荷となりました。海外向けは北米市場で油圧ブレーカ、油圧クローラドリルの出荷が増加し増収、その他の地域は減収となり、前期並みの売上高となりました。ユニック部門では、国内向けは駆け込み需要のあった前年同期に比しユニッククレーンは減収、海外

向けは欧米向けミニ・クローラクレーンの出荷が好調で増収となりました。金属部門では、電気銅は販売数量減を銅価格上昇により補い、電気金は生産数量増により増収となりました。一方で営業利益は買値条件の悪化や金価格の下落などにより減益となりました。電子部門では、高純度金属ヒ素は化合物半導体が堅調で前期並み、結晶製品は個別半導体用などの販売数量が増加し増収となりました。化成品部門では、めっき用酸化銅は増収となりましたが、亜酸化銅は船底塗料の需要減により減収となりました。

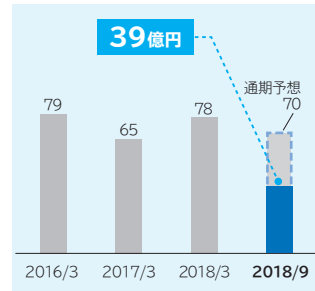
売上高

(億円)



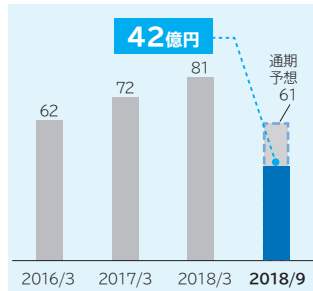
営業利益

(億円)



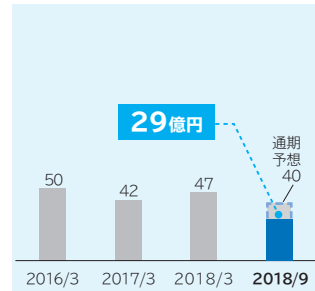
経常利益

(億円)



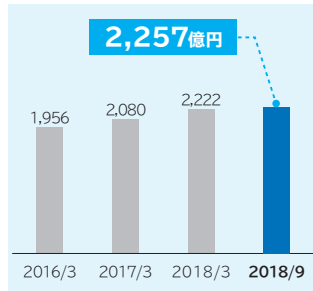
親会社株主に帰属する当期純利益

(億円)



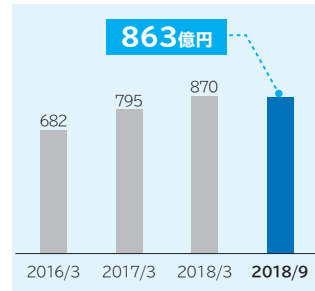
総資産

(億円)



純資産

(億円)



■ 第2四半期(中間) ■ 通期

事業部門別 売上高

(百万円)

	2018年3月期 第2四半期累計期間	2019年3月期 第2四半期累計期間	対前年同期 増減
機械事業	35,215	37,119	1,903
産業機械部門	5,675	7,182	1,507
ロックドリル部門	15,684	15,656	△28
ユニック部門	13,855	14,280	424
素材事業	42,775	47,090	4,314
金属部門	36,621	40,670	4,048
電子部門	2,982	3,283	301
化成品部門	3,171	3,136	△35
不動産事業	1,658	1,630	△27
その他	452	418	△33
合計	80,102	86,258	6,156

事業部門別 営業利益

(百万円)

	2018年3月期 第2四半期累計期間	2019年3月期 第2四半期累計期間	対前年同期 増減
機械事業	2,127	2,547	419
産業機械部門	△117	294	412
ロックドリル部門	923	972	48
ユニック部門	1,321	1,280	△41
素材事業	1,219	751	△467
金属部門	912	269	△642
電子部門	66	240	173
化成品部門	239	241	1
不動産事業	708	702	△5
その他	△77	△62	15
調整額	△33	△32	0
合計	3,943	3,905	△37

TOPIC

ロックドリル部門：ストックビジネス強化および製品ラインナップ拡充

ロックドリル部門の中核事業会社である古河ロックドリル株式会社では、2018年5月、中大型油圧ブレーカの自社整備を東北地区と関西地区で開始しました。油圧ブレーカ市場で国内シェア約40%（当社調べ）を占める同社の位置づけをさらに高めるべく、製品納入後の顧客サポートを強化していきます。

また、鉄骨鉄筋コンクリート（SRC）造解体用の大割用油圧圧砕機『Vz-7』を開発し、2018年7月より販売を開始しました。近年、SRC造のビル解体、大型プラント解体工事が増えており、新製品投入で需要に対応していきます。

さらに、超大型油圧ブレーカ『Fxi1070』を開発し、2018年8月より販売を開始しました。旧超大型モデルと比べ、メンテナンスコストの低減、耐久性の向上、打撃力アップ、高寿命化を実現させたほか、超低騒音仕様のため、騒音・振動によるオペレータの疲労を

大幅に軽減することが可能です。

ロックドリル部門では、今後もフロービジネス・ストックビジネス両輪での収益拡大に取り組んでいきます。



SRC造解体用大割用油圧圧砕機『Vz-7』 超大型油圧ブレーカ『Fxi1070』

会社概要

古河機械金属株式会社 FURUKAWA CO.,LTD.

- 創 業 1875 (明治8) 年8月
- 設 立 1918 (大正7) 年4月
- 資 本 金 282億818万円
- 従 業 員 数 2,759名 (連結)
- 本 社 東京都千代田区丸の内二丁目2番3号 (丸の内仲通りビル)
電話 (03) 3212-6570 (代表番号)
電話 (03) 3212-6561 (法務部)
- 中 核 事 業 古河産機システムズ株式会社
古河ロッドドリル株式会社
古河ユニツク株式会社
古河メタルリソース株式会社
古河電子株式会社
古河ケミカルズ株式会社

取締役及び監査役

- | | |
|---------|-------|
| 代表取締役社長 | 宮川尚久 |
| 専務取締役 | 松本敏雄 |
| 常務取締役 | 岩田 穂 |
| 常務取締役 | 松戸茂夫 |
| 常務取締役 | 三村清仁 |
| 常務取締役 | 吉村政信 |
| 独立社外取締役 | 友常信之 |
| 独立社外取締役 | 手島達也 |
| 取締役 | 荻野正浩 |
| 社外監査役 | 猿橋上三 |
| 社外監査役 | 井上徹郎 |
| 社外監査役 | 山下 雅之 |

執行役員

- | | |
|-----------|------------|
| 常務執行役員(兼) | 松戸茂夫 |
| 常務執行役員(兼) | 三村清仁 |
| 上級執行役員 | 阿部野平 |
| 上級執行役員 | 佐野勝一 |
| 執行役員 | 川下田敦 |
| 執行役員 | 栗大谷 |
| 執行役員 | Jeff Crane |
| 執行役員 | 中村松達 |
| 執行役員 | 齋藤田龍 |
| 執行役員 | 飯名宮崎 |
| 執行役員 | 酒井野嶋 |
| 執行役員 | 高野 宏 |
| 執行役員 | 宮 厚健 |

株主メモ

- 事業年度の末日 3月31日
- 定時株主総会 6月
- 定時株主総会の基準日 3月31日
- 期末配当の基準日 3月31日
中間配当を実施するときの基準日は9月30日
- 単元株式数 100株
- 公告掲載のホームページ <https://www.furukawakk.co.jp>
(ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。)
- 株主名簿管理人・特別口座管理機関
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
- 郵便物送付先及び各種お問合せ先
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話 (0120) 782-031 (フリーダイヤル)

お知らせ

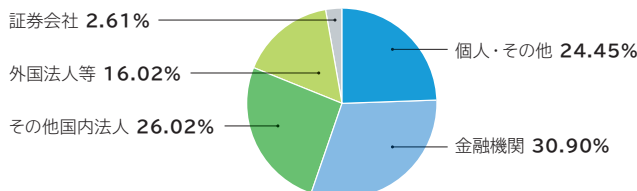
- 住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座のない株主様につきましては、当社が特別口座を開設し管理していますので、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- 未払配当金の支払いについて
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

株式の状況

株式

発行可能株式総数	80,000,000株
発行済株式の総数	40,445,568株
株主総数	21,069名

所有者別株式構成



大株主(上位10位)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,785	6.89
朝日生命保険相互会社	2,373	5.87
清和綜合建物株式会社	1,503	3.72
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,382	3.42
横浜ゴム株式会社	1,341	3.31
富士通株式会社	961	2.38
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	939	2.32
古河電気工業株式会社	877	2.17
富士電機株式会社	862	2.13
CHASE MANHATTAN BANK GTS CLIENTS ACCOUNT ESCROW	730	1.80

(注) 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

個人投資家の皆様へのホームページのご案内

当社ホームページでは、基本情報をはじめ、最新ニュースやIR情報など当社をより深くご理解いただくためのさまざまな情報を提供しております。

トップページ <https://www.furukawakk.co.jp/ir/>

個人投資家の皆様へ

一般の方や学生に向けたユニークな動画を公開!

当社では一般の方や学生の企業認知度向上のため、「古河気合筋肉」でおなじみの電車広告等を展開しています。さらにブランディングエンタメサイトでは当社を楽しく知っていただけるユニークな動画を多数公開しています。

古河気合筋肉